



## 「ゆっくり・ツーリズム」

滋賀銀行 専務取締役 奥 博

日頃の運動不足解消と健康づくりを目指して、滋賀県主催の「琵琶湖一周健康ウォーキング」に挑戦しています。1回あたり約20kmの行程で13回、琵琶湖一周約250kmを1年かけて踏破するものです。遠方からの参加者やリピーターも多く、ウォーカー同士の交流が広がることも楽しみの一つです。

時速5kmの“ゆっくり”した速度で歩いてみると、季節や時間ごとに表情を変える琵琶湖や町並みの美しさ、知られざる歴史建造物に加え、豊かな自然の中で息づく人々の暮らしなど、車窓からでは気づかない湖国の素晴らしさを改めて感じることができます。

本年4月、日本各地の文化や伝統を国内外に発信しようと文化庁が新設した「日本遺産」に、「琵琶湖とその水辺景観一祈りと暮らしの水遺産」が選ばれました。県と大津、彦根、近江八幡、高島、東近江、米原の

6市に伝わる文化財や伝統行事、風習21件で構成され、地元住民が守り、伝えてきた文化的景観と暮らし、食文化などが評価されたものです。

滋賀県には魅力溢れる地域資源が数多く存在しますが、日経リサーチ社の「地域ブランド戦略サーベイ2013」によると、その知名度は全国37位(同率最下位)に甘んじており、「琵琶湖県」や「近江県」への改名を、との議論も起こっています。しかし、滋賀県のブランド力を高めるには、何よりも私たち自身が“地域の宝”を知り、伝え続ける努力が大切です。

世間の喧騒から離れ、ココロとカラダの健康につなげる「ゆっくり・ツーリズム」で、さらなる地域の魅力を発見し、その魅力を国内外に発信することで、微力ながら滋賀の観光振興に努めていきたい、と考える次第です。

### 県内データ あれこれ

### 2014年経済センサス —基礎調査結果(速報)

## 県内の民営事業所、従業員が増加 医療・福祉の伸び大きく

経済センサスは、日本国内すべての事業所および企業を対象とした統計調査であり、「経済の国勢調査」ともいわれる。滋賀県公表の2014年結果(速報)によると、県内の民営事業所数<sup>\*1</sup>は5万8,936事業所で、前回12年調査比+1.5%。従業員数<sup>\*2</sup>は61万7,761人で同+4.6%と、いずれも全国平均(順に+0.7%、+3.9%)を上回って増加に転じた。

産業別に割合をみると、事業所数では「卸売業、小売業」が24.7%と最も高いものの、従業員数では「製造業」(27.4%)がトップ。全国平均(15.7%)を大きく上回り、県内総生産における第2次産業の割合が全国第1位という滋賀の特徴を裏付ける結果となった。

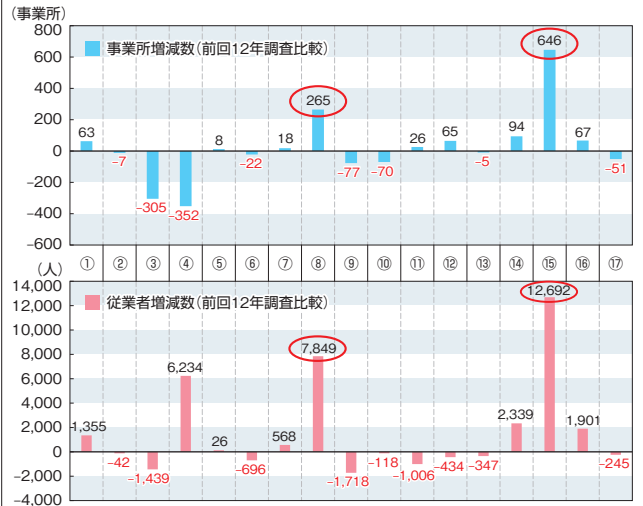
産業別で前回と比較すると、事業所数では「医療、福祉」が646事業所増(+18.6%)、事業所数で最多の「卸売業、小売業」も265事業所増(+2.0%)となった。従業員数でも「医療、福祉」が1万2,692人増(+21.6%)と大きく増加し、「卸売業、小売業」も7,849人増(+7.0%)となった。

景気の回復基調が背景とみられる全体的な増加の中、医療・福祉分野の大きな伸びは高齢化の進展が大きく影響したものと思われる。引き続き今後の動向に注目したい。

(株)しがぎん経済文化センター 長山 真由美

### 滋賀県の事業所と従業員の増減数

①農林漁業 ②鉱業、採石業、砂利採取業 ③建設業 ④製造業 ⑤電気・ガス・熱供給・水道業  
⑥情報通信業 ⑦運輸業、郵便業 ⑧卸売業、小売業 ⑨金融業、保険業 ⑩不動産業、物品賃貸業  
⑪学術研究、専門・技術サービス業 ⑫宿泊業、飲食サービス業 ⑬生活関連サービス業、娯楽業  
⑭教育、学習支援業 ⑮医療、福祉 ⑯複合サービス業 ⑰サービス業(他に分類されないもの)



\*1: 調査対象事業所から「国・地方公共団体の事業所」を除いた集計 \*2: 事業内容等不詳を除いた事業所を対象に集計